

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 7-4

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	一時保育促進事業			
評価者	担当課・係名	児童センター 児童保育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	牧野京子	氏名
		職名		係長
		氏名		安井雅憲
事業の概要	仕事の都合や保護者の傷病などで、一時的に家庭で保育ができない場合に、保育所内で児童の保育を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単 位 施 策	2	「子育て」支援の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	771千円	555千円	650千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	134千円	191千円	224千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	小学校就学前の幼児	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	核家族が進み、一時的に子どもを預けられる環境が減少している。		年間延べ利用人数 100人	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	緊急、一時的に安心して預けることができるサービス。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	幼児を持つ父母の不安を和らげる。		① 年間利用人数	目標年度 19年度 目標値 100人 実績値 89人 達成度 89%
		②	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①一時的な保育所への受入	広報等により事業周知を行い、連絡・受入体制を整え、一時的な保育受入を行った。			
②				
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	核家族が主体となっている現代では、一時的に子どもを預けられる環境が少ない現状があるため、このニーズに応えることができる本事業の実施は重要であると考えます。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	数値的には目標値を下回っているものの、その時に必要なニーズに応えることが重要であることから、有効であったと判断する。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	保育所運営内での受入であることから、無理なく、無駄なく事業実施が可能である。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
保育所は、多面的な機能を兼ね備える役割を持っており、現在の施設規模や人員配置で行える本事業の役割と効果は大きい。現段階では、家庭外で受入ができる唯一の場所であり、計画どおり進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
本事業は状況等により利用数の変動があるものの、ニーズが無くなることは見込まれていない。受入態勢に無理が生じないように配慮し、制度周知を図り、安心できる子育て環境メニューの一つとして継続することが適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 7-5

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	保育所地域活動事業			
評価者	担当課・係名	児童センター 児童保育係		
	課長等	職名	所長	作成者
		氏名	牧野京子	氏名
		職名	係長	氏名
				安井雅憲
事業の概要	保育環境は、異世代との交流がほとんど図れない状況にあるが、児童健全育成の観点からも、世代間交流が行える環境づくりが必要であり、その効果も大きい。また、育児に関する情報提供や交流を持つことにより、地域一体となった保育環境を整えることができる。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登録事業		□非登録事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単 位 施 策	2	「子育て」支援の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	550千円	485千円	550千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	250千円	185千円	250千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	入所児・保護者・高齢者・子育て中の親	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	保育所は他の世代と接する機会や、町民が保育の様子を見る機会がほとんどない。		年間総参加者数	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	交流機会と参加者の確保。保育内容が見られる環境づくり。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	事業を通して、特に年長児の自覚と自信や意欲を育てる。		① 参加者数	目標年度 19年度 目標値 600人 実績値 1,044人 達成度 174%
		②	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①世代間交流	長寿クラブ員や高齢者などを各種イベントに招待、または訪問し、競技や踊りなどを通じて交流を図り、入所児だけでなく、地域の方々との接点を持つことにより、保育環境の充実、児童の健全育成を図る。			
②地域子育て家庭への育児講座	入所児の保護者や地域の子育て中の方々などに、様々な視点で入所児の様子を見学してもらい、交流を図ることにより情報提供や意見交換の機会をつくる。			
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	世代間交流は児童の育成に大きな役割を持つと共に、特に高齢の方々にも喜ばれている。また、保護者や地域を巻き込んだ子育て支援としても効果がある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	世代間交流においては、長寿クラブ員などからは、こうした交流が非常に喜ばれ、また、入所児にとっても交流そのものや保育所外での活動は良い経験となる。育児講座においては、家族や地域の方々に保育所の役割の理解を深めてもらい、地域との関わりを深めてもらうことができる。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	教材等については、できるだけ他の事業と共用が図れるよう工夫し、事業費を抑えている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
世代間交流として、高齢者等を招待・訪問し交流を図ることは、子どもたちの心を育てることに大きな役割を持ち、伝承遊びなど、伝える側、教わる側の双方の立場で得るものが大きく、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持		
事業の趣旨を明確にした上で、様々な角度で有効と考えられるメニューづくりとそのメニューごとの目的を明確化し、入所児だけでなく、地域にも意義のある事業展開を図ることが可能であり、事業を継続することが適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 7-6

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	入所児童通所事業			
評価者	担当課・係名	児童センター 児童保育係		
	課長等	職名	所長	作成者
		氏名	牧野京子	氏名
		職名		係長
		氏名		安井雅憲
事業の概要	幌内保育所休止に伴う交通機関の確保として自園車両による通所事業を行うことにより、地域の不利益の解消と合わせて児童の安全な登降所を行う。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
	基本政策	8	子育て・子育ての充実	
	単 位 施 策	2	「子育て」支援の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	1,617千円	1,585千円	1,650千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1千円	0千円	1,650千円 (補助金の関係で前年比増額となっているが、町が負担する金額は前年とほぼ同額となる。)

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	幌内地域の保育所入所児童・保護者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	平成14年から幌内保育所が休所となったため、保護者が市街地まで児童を送迎することが大変となる。		1便								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	保護者協力の下、自園車両での通所。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	毎日の遠距離送迎の負担を軽減できる。		① 送迎の便数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1便</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1便</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1便	実績値	1便	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1便										
実績値	1便										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①児童の送迎	地域保育所の休止に伴い、幌内地域の児童が日の出保育所へ通所するため、自園車両で送迎を行う。										
②											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	幌内保育所を休止したため、保護者の毎日の送迎は大変であり、また、近年は対象者も増加傾向にあり、送迎車両の運行が求められている。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	事業実施により、毎日の通所に支障を来さなかった。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	送迎車両の運転業務は委託を行っているが、連絡体制の強化を図ることで、連絡ミスによる不要時の運行などを避けることができた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
休止した保育所の地域に住む児童と保護者の不利益にならないよう実施している本事業は、1台の車両での送迎は効率性にも優れ、また、地域のネットワーク化も図られ、スムーズな保育ができています。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
保育所休止に伴う不利益地域に在住する保育所入所児に対して、通所方法を支援することは今後も必要であり、継続することは適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項